

関西大学 **社会安全学部** ってこんな学部!

01 **安全マネジメント学科**



文系理系を超えて、防災・減災、事故防止、危機管理について幅広く学ぶ

02 **特徴的な教育プログラム**



自然災害だけでなく、社会災害も実習を通して学べる(P.06)

03 **教育体制**



防災・減災、事故防止、危機管理に多様にアプローチする28ゼミ

04 **学びの環境**



防災・減災、事故防止、危機管理に貢献する「社会安全士」の資格を取得可能

05 **オンリーワン**



「社会安全学」を学べる日本で唯一の学部

06 **卒業後の進路**



安全・安心への社会ニーズに基づく高い就職実績

社会安全学部の最新情報をチェックしよう!

**学部ホームページ**

さらに詳しい情報は、「社会安全学部ホームページ」をご覧ください。キャンパスライフがわかる「学生インタビュー」から「就職実績」まで、気になる情報が満載です。



**関大先生チャンネル**

関西大学の教員が研究・教育活動について語る“知の動画アーカイブ”、それが「関大先生チャンネル」です。学部のさまざまな先生の講義を体験!



関西大学の最新情報をチェックしよう!

関西大学 入学試験情報総合サイト **Kan-Dai web**

オープンキャンパスなどのイベント情報や入試に関する最新情報など、受験生を応援するコンテンツが満載! 社会で活躍する卒業生インタビュー、学生インタビューなども随時更新しています。

関大 入試 検索



**JRでのアクセス**

JR京都線「高槻」駅(大阪・京都駅から共に約15分)下車、徒歩約7分。

**阪急電鉄でのアクセス**

阪急京都線「高槻市」駅(大阪梅田・京都河原町駅から共に約20分)下車、徒歩約10分。

**新幹線「新大阪」駅からのアクセス**

JR「新大阪」駅からJR京都線で「高槻」駅下車、徒歩約7分。

**大阪国際(伊丹)空港からのアクセス**

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市(かどまし)」行で「南茨木」駅下車、阪急京都線に乗り換え「高槻市」駅下車、徒歩約10分。

# 社会安全学部

## 安全マネジメント学科



夢は人を助ける消防士。



災害を想定した実習で、  
公務員をめざす。



災害情報を担う  
ジャーナリストが目標。



命を守るリアルな実験と精緻な  
シミュレーションができる  
エンジニアに。

# 社会安全学部でどう学ぶか。

社会・人間・自然、そのすべての学問領域から最先端の知見を集めて「安全・安心」を探究します。問題を多角的に捉える総合力、実践的な解法を見出す即戦力を身に付けることができます。



社会安全学部

## 3つの学びの領域

社会

自然災害・社会災害につよい社会システムの構築

関連する学問 法学、経済学、社会学 など

人間

自然災害・社会災害と共生する人間の理解

関連する学問 哲学、心理学、教育学、医学 など

自然

自然災害・社会災害の発生過程の解明

関連する学問 工学、理学 など

## Contents

- 03 学びの流れ・カリキュラム
- 05 科目紹介
- 07 研究紹介
- 09 課外活動
- 10 大学院
- 11 就職・進路
- 13 キャンパス紹介
- 14 教員・研究紹介

関西大学 社会安全学部をめざす皆さんへ

### 社会安全学の知識と高いマネジメント能力を有した「人財」を養成します。

2010年4月、関西大学 社会安全学部は、安全・安心な社会の構築を目的とした「社会安全学」に関する研究・教育を行う高等教育機関として、わが国で初めて創設されました。

「社会安全学」とは、地震や津波などの自然災害、製品事故などの「社会災害」を対象に、防災・減災対策や事故防止、危機管理のための政策立案とその実践に関する知識を、理工学・社会科学・人文科学の学問横断的に学ぶ、新しい学問体系です。

例えば、地震災害への防災・減災対策を理解するためには、工学のみならず、経済学や行政学、社会学などの複数の学問分野を学ぶ必要があります。また、企業の製品事故の予防対策を学ぶためには、経営学や法学、心理学などを学際的に学ぶ必要があります。本学部では10以上の学問分野の知見を学ぶ科目群に加え、これらを実践する演習や実習科目を多数配置しています。具体的には、架空の企業の経営者としてクライシスマネジメントを模擬体験する実践演習などがあります。さらには、国際的に活躍するための英語教育にも力を入れています。

社会安全学の知識と高いマネジメント能力を有した「人財」は、企業や国・地方自治体、国際機関など、さまざまな分野で求められています。皆さんが本学部で学び、社会のさまざまな分野でリーダーとして活躍できる「人財」に成長されることを期待しています。

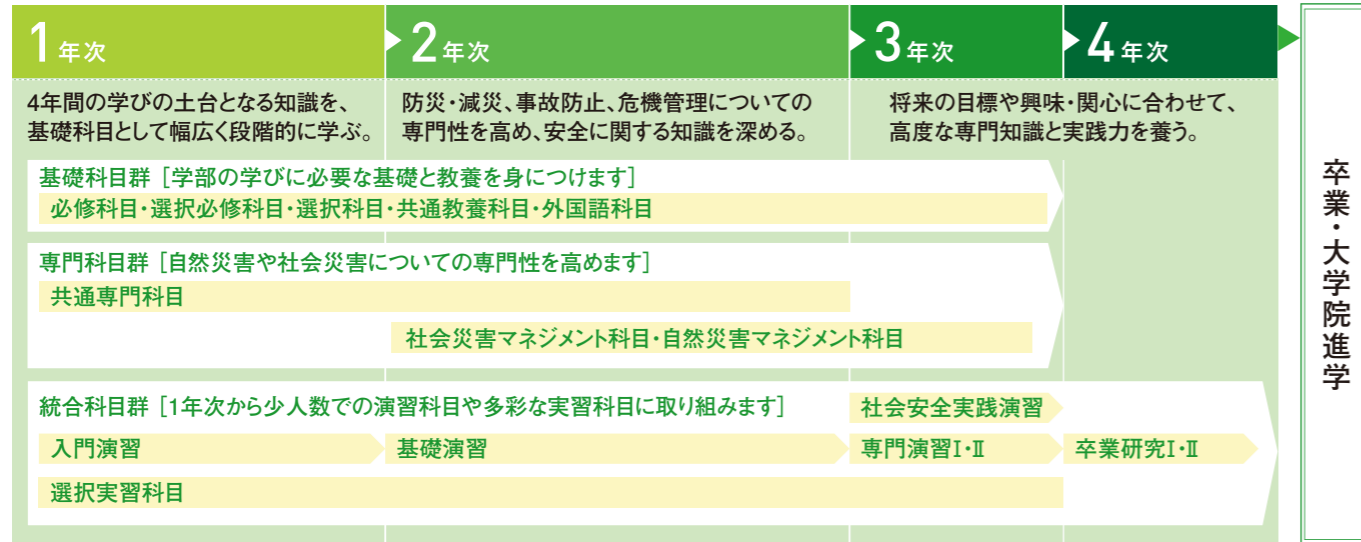


社会安全学部長  
高野 一彦 教授

# 学びの流れ・カリキュラム

文系・理系の枠を超えて、幅広い分野を網羅。自分自身で学び方を選び、興味の幅を広げ、知識を深めることができます。

## 4年間の学び



私の学び方 文理両方の観点から災害について学び、理解を深めたい

災害と復興に人や社会がどのように向き合うのか研究を深めたいと思います。

4年次生 岩口 ひなたさん (大阪/桃山学院高校出身)

災害について多角的な観点から学ぼうと考え、1~2年次は幅広く受講しました。その中で、災害が起きた後の復興支援や、被災時に人々が受けるストレスとその乗り越え方など、社会学や心理学の観点から災害と復興について考えることへの興味が深まっています。今後は復興支援に取り組む人々をいかに支援するか、研究を進めるつもりです。



岩口さんの時間割 (2年次春学期の時間割)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	オンデマンド
1	基礎演習	英語IIIa(上級)		環境政策論	フランクティカル英語Ib	クライシスマネジメント論
2		危機管理とリーダーシップ	災害情報論	災害復旧・復興論		ヒューマンエラー
3			英語IVa(上級)		災害心理学	
4						
5			リスクと災害の社会学			

私の学び方 災害情報の伝え方を学び、課外活動に活かしています

学んできた知識を総動員して、災害発生時の対応をシミュレーションしました。

4年次生 合志 亮佑さん (兵庫/県立尼崎福園高校出身)

「社会安全実践演習(危機管理計画立案)」という授業では、学生が大学の危機管理担当者になったつもりで、大学が強い揺れの地震にみまわれた際の対応をシミュレーションします。避難所の確保、錯綜する情報の精査、学内外へ向けた迅速な情報の発信などを、限られた時間内で適切に対応することは非常に難しいのですが、それを体験的に学ぶことに価値があると感じます。



合志さんの時間割 (3年次春学期の時間割)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1		世界地理	社会安全実践演習(危機管理計画立案)	環境政策論	
2		社会技術論		フランクティカル英語IIa	医療と医薬品と安全
3		専門演習I		安全・安心の行政法	災害心理学
4				地震災害論	消費者安全関連法
5					

	1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎科目群	必修科目	社会安全学総論I 社会安全学総論II IT実習			
	選択必修科目	社会安全のための数学I 社会安全のための数学II 社会安全のための統計学			
	選択科目	安全と法制度 科学技術史と社会 現代の国際社会 法学概論 行政学 経済学概論 経営学概論 近代史 現代史 世界地理 哲学 論理学 倫理学 心理学 社会心理学 自然科学概論 地球科学概論 特殊講義(各テーマ) 寄附講座(各テーマ)			
	共通教養科目	日本国憲法 高槻市と関西大学 健康・スポーツ科学実習a(各種目) SDGs入門 SDGsの実践 健康・スポーツ科学実習b(各種目) SDGsの実践 健康・スポーツ科学実習c(各種目) 金融の実務から見るSDGs 大学生から始めるキャリア形成 環境問題と環境政策のルーツ キャリア形成入門演習 カarbonニュートラル入門 [チャレンジ科目]各テーマ	健康・スポーツ科学論 現代社会を生き抜くためのキャリア形成	社会のためのデータサイエンス実践基礎 AI・データエンジニアリング実践基礎	
外国語科目	英語Ia/b 英語IIa/b プラクティカル英語Ia	ドイツ語Ia/b ドイツ語IIa/b フランス語Ia/b フランス語IIa/b ロシア語Ia/b ロシア語IIa/b 中国語Ia/b 中国語IIa/b 韓国語Ia/b 韓国語IIa/b	英語IIIa/b 英語IVa/b プラクティカル英語Ib	プラクティカル英語IIa/b	
	検定認定1(各検定試験) 検定認定2(各検定試験) 検定認定3(各検定試験)				
外国人留学生科目	日本語Ia/b 日本語IIa/b 日本語IIIa/b 日本事情I/II	日本語IVa/b 日本語Va/b 実践ビジネス日本語I/II	キャリアデザインI(日本の社会と企業) キャリアデザインII(日本の就職と働き方)	日本語VIa/b キャリアデザインIII(日本の社会で働く)	
	Contemporary Japan (Understanding Japan, Researching Japan, Japan in Mass Media 1/2) Communication in Japanese Society (Business Japanese, JPN Corporate Culture) KUGF Independent		Study(Understanding Organization Culture) Work-Based Field Study(PBL with Small to Medium Companies, Hospitality & Management, Japan) Japanese (1-a/b~7-a/b)		
専門科目群	共通専門科目	災害事例分析 化学物質と環境リスク 製品安全論 安全システム論 都市構造物の歴史 防災教育 社会調査の基礎	安全の思想 安全・安心の企業法 クライシスマネジメント論 地方自治法 地方財政論 社会技術論 リスクと災害の経済学 治安政策論 交通システム安全論 コンプライアンス論 保険論 交通事故と損害保険 防災行政論 リスクマネジメント論	危機管理とリーダーシップ リスクと災害の社会学 リスク認知論 リスクコミュニケーション 人間行動実験法 リスク評価法 気候変動と地球温暖化リスク 応用データサイエンス	
	社会災害マネジメント科目		消費者安全関連法 犯罪論 災害心理学	食の安全学 医療と医薬品と安全 事故調査制度論	
	自然災害マネジメント科目		防災まちづくり 地震災害論 環境問題事例研究	水災害論 地盤災害論 耐震工学	
統合科目群	選択実習科目	数学実習 AI実習	社会安全体験実習 統計データ解析実習II GIS実習 災害シミュレーション実習	社会調査実習I 社会調査実習II	
	必修演習科目	入門演習	基礎演習	ものづくり実習 人間行動実験実習	
	選択演習科目			専門演習I 専門演習II	
	自由科目群	就職概説 教育原理 日本史概説I/II 図書館情報資源概論	東洋史学 西洋史学 地誌学I/II 地理学概説I/II 教育制度論	公民科教育法(二) 道徳教育の理論と方法 特別活動論 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む) 教育相談論	カリキュラム開発論 社会科教育法(三) 社会科教育法(四) 教育実習(一)

### 取得可能な資格

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 社会安全士
- 社会調査士
- 司書教諭
- 司書
- 学芸員

\*赤字は必修科目。\*その他グローバル科目群も一部履修可能です。

# 科目紹介

## 講義紹介

社会安全学を支える幅広い教養と、防災・減災や事故防止、危機管理に関する専門知識を学びます。

### 社会 流行病の制御学

中間 千香子 准教授

#### 感染症流行への適切な対策を講じる力を習得することをめざす

現代の医学の進歩にもかかわらず、感染症は依然として生命を脅かす存在です。この講義では、感染症に対する基本的な知識や予防策を学ぶとともに、流行状況の把握、制御のための対策、予防接種の理解を深めることで、感染症流行に対する適切な対策を講じる力を習得することをめざします。将来、医療や福祉、食品関係の部署や企業に就職するケース、感染症に関する危機管理を担うケースを想定し、感染症に関する実践的な知識や思考力などを身に付けます。

学びの KEYWORD > ● 感染症予防 ● 感染症の危機管理 ● 公衆衛生

#### 受講生の声

感染症が自分にも関わりのある存在だと気付くことができました

新型コロナウイルス感染症が流行したことがきっかけで、感染症に興味をもち受講しました。新型コロナウイルス感染症の5類移行など、今までよく分かっていなかった内容を理解でき、感染症が自分にも身近な存在だと気付くことができました。



### 人間 防災教育

城下 英行 准教授

#### 社会現象として災害を捉え、防災・減災のための学びを考える

私たちの身の回りでは、さまざまな地域や組織で防災の取り組みが進められています。では、大学で専門的に学ぶ私たちは、防災に対してどのような役割を果たすことができるのでしょうか。本講義では、災害を社会によって規定される現象として捉えます。その視点に立ち、防災対策の歴史や現状を踏まえながら、「防災」と「学習」という二つの側面から、防災を推進するための学びのあり方について考えます。

学びの KEYWORD > ● 防災・減災・災害 ● 災害と事故 ● 学習と発達

#### 受講生の声

既存の防災教育の課題を踏まえ、防災・減災を進める教育の在り方について学びました

受講前まで、防災教育は学校の先生や専門家が一方的に教えるものだと思っていましたが、知識を伝えるだけでは解決しない問題が多くある現状を知り、防災・減災の取り組みに直接関わる教育の重要性を学びました。



### 自然 応用データサイエンス

福井 敬祐 准教授

#### データを活用し、社会の課題を解決するさまざまな方法を学ぶ

データサイエンスは社会に存在するさまざまな情報(データ)を活用して、あらゆる分野の課題を解決することを目的とする学問分野です。本講義ではデータサイエンスの応用に焦点を当てて、データの処理・分析・理解を効率よく行うための数学・統計学の基礎理論や実際の解析方法について学び、社会安全に関するさまざまな分野との協同が可能な人材の育成をめざします。

学びの KEYWORD > ● データサイエンス ● 統計学 ● データ分析

#### 受講生の声

統計解析能力を向上させ、卒業研究や将来の仕事に生かすため履修しました

実践演習を通じて、データを加工・分析・結果解釈するというデータサイエンスの一連の流れを体験しました。分析力だけでなく、結果を正しく解釈し、図表化する表現力や論理的思考力も大切だと気付きました。



## 実習・演習紹介

「安全学」を実社会でどのように生かすかを、学内はもちろん学外でも主体的に学びます。

### 社会安全体験実習

中村 隆宏 教授

#### 道路を利用するすべての人の立場から、自動車運転の安全性を体験学習する

自動車運転にともなう危険を認識するため「クレフィール湖東・交通安全研修所」で1泊2日の宿泊研修を実施。受講者は実際に車に乗って具体的な危険状況を模擬体験し、「なぜ危険なのか」「どう防止するのか」「事故が起きそうな時、どう対処するか」を検証し、レポートを作成します。実習の目的は、道路空間を利用するすべての人が「事故防止のために何ができるか」を考えること。そのため、例えば「後部座席に乗る人がシートベルトをしない危険」とは、実際にはどんなものか、同乗者の危険も体験学習します。

#### 実習の流れ

- 学ぶ 講義を通し、交通安全に関わるさまざまな課題を学びます。
- 体感する 特別プログラムを通し、身近な危険を疑似的に体験します。
- 習得する 知識と経験をもとに、安全の在り方を考え、習得します。



### 社会安全実践演習(クライシスマネジメント) 高野 一彦 教授

#### ロールプレイングによって、専門知識の実践的な活用法を習得する

社会安全実践演習には、「クライシスマネジメント」「危機管理計画立案」「危機管理本部運営」「合意形成」「ISDR」の5つのテーマがあり、それぞれのテーマごとに演習が行われます。「クライシスマネジメント」は、3日間の集中講義で行います。第1～2日は、不祥事・製品事故など、実際の事件をケースとし、ディスカッションを通して経営判断の基礎を学びます。第3日は、企業でのクライシス発生を想定して、経営者としての一連のクライシス対応を模擬的に経験します。3日間を通して、企業や組織のリーダーの合理的な判断を探究します。

#### 実習の流れ

- 知識の習得 法学、経営学、心理学など、企業や組織の経営に必要な学問分野を学際的に学びます。
- ケースメソッド ケースを使ったディスカッションを通して、社会災害の予防・発生時の判断を学びます。
- シミュレーション クライシス発生時における、企業や組織のリーダーの合理的な判断を探究します。



## 共同研究プロジェクト

社会安全学部は文理融合の教育・研究を行っており、異なる分野の教員やゼミが協力し、フィールドワークや研究活動を展開しています。

### 【地盤工学×情報学】

日本各地で高まる土砂災害のリスク。山間部では過疎化・高齢化が進み、コストのかかる土木工事をする余裕がありません。そこで、住民自ら、簡易な観測機器を使って前兆をキャッチ、みんなで情報共有する仕組みづくりを学生が支援しています。



### 【耐震工学×総合防災・減災】

一見すると「防災」とは無関係に思われる「灯油の巡回販売サービス事業者」。企業の独自技術やサービスを防災に応用するアイデアを学生も案出することで、従来とは異なる手法で、家具の転倒防止や避難所の環境改善を促進していこうとしています。



## 多文化共修科目

### 【多文化共修から広がる、安全学の新たな地平】

社会安全学部では、国際的な視点を取り入れた新しい学びとして、「多文化共修」と交換留学の推進に取り組んでいます。防災・減災や地域レジリエンスなどの社会課題を解決するためには、地域の文化・慣習・制度といった社会的環境や、場所・気候などの地理的環境を理解することが欠かせません。こうした視点を実践に生かし、国際社会に貢献できる学生を育成するために、多様な文化的背景をもつ学生が協働しながら、実践的な課題解決力と国際的な視野を身に付けるプログラムを実施しています。担当教員は、国際的な研究協働や教育活動の企画・運営の経験をもち、多文化共修を促します。さまざまな背景をもつ学生が互いに学び合い、グローバルな視点から社会の安全・安心を考える新しい学びの場を創り出しています。



# 研究紹介

3つの学びの分野からそれぞれ1つゼミをピックアップして、どのような研究に取り組んでいるか語ってもらいました。

## 社会



4年次生 森本 虎之介さん (N高等学校出身)  
4年次生 浅賀 悠生さん (静岡/県立浜松西高校出身)  
4年次生 音川 真澄さん (兵庫/県立夢野台高校出身)

### アンケート調査をもとに大学生の「観光列車利用」を促進する具体策をまとめました。

私たちは「観光列車」が沿線の地域活性化につながると仮説を立て、先行研究を調べました。すると、その仮説を支持するような研究はなく、むしろ観光列車と地域活性化との関係に課題を残しているという結果となりました。そこで研究テーマを再検討し、大学生の観光列車利用を促進する方法を考えることにしました。まず、大学生150人にアンケート方式で意識調査を実施。その結果、大学生をはじめとする若い世代は、移動時に観光列車を利用したいと思う人が少ないという調査結果が見つかりました。約90%の学生は「乗れるものなら乗ってみたい」と答えた一方で、観光列車の存在を「見たことも聞いたこともない」という回答が大半を占めていました。つまり、興味はあるものの、そもそも観光列車のプロモーションが大学生に届いていないことが明らかになりました。続いて、大学生のSNS利用

状況をアプリ別に調査して、どのアプリでどのようなプロモーションを行えば効果的なのかを分析して、具体案を提言としてまとめました。当初の「観光列車を使った地域活性化が有効」という仮説は崩れましたが、視点を変えて「大学生の利用促進」にテーマを転換し、観光列車への意識調査とSNS利用状況の調査を組み合わせた分析は先例がなく、懸賞論文として提出することができました。



▲ゼミの時間が終わった後も、3人で2時間ほど残ってアンケートの分析結果をめぐって議論することもありました。

#### 担当教員より

輸送の安全確保は、国民が安心して暮らせる社会を実現する上で必要不可欠な課題です。そこで、本ゼミでは自動車・鉄道・航空・船舶などの運輸分野における、事故防止と安全確保について研究しています。何をテーマに選び、どのように研究を進めるかを学生が主体となって考えることで、社会でも通用する力を身につけてもらいたいと思います。



吉田 裕 教授

## 人間



2025年3月卒業 浅田 愛未さん (兵庫/県立赤穂高校出身)  
2025年3月卒業 三嶋 昂将さん (鳥取/県立米子西高校出身)

### 「地域コミュニティ」で安心して暮らすためには。現地調査を通して実態を把握し、課題を考えます。

菅ゼミでは、災害など地域社会の安全を脅かす問題を取り上げ、現地調査を通じてその実態と課題を明らかにしていきます。3年次は、文献調査の方法とフィールドワークの進め方を学んだ上で、夏季休業期間に新潟県中越地震の被災地で復興状況を調査しました。資料を読み込んでおくことはもちろんですが、現地の様子を実際に見て、関係者から話を伺うことで初めて見えてくることもありました。4年次に進んだ現在は、ゼミ生がめいめいに研究計画を立てて、調査を進めています。私(浅田)は、約10年前に豪雨災害で被災した兵庫県丹波市市島町が、復興の過程で「関係人口」を増やしなが、地域活性化もめざしている点に注目し、フィールドワークを続けています。関係人口とは、特定の地域に継続的に多様な形でかわる人のことを指し、「観光以上、定住未満」と例えられることも

あります。定期的にお祭りや農業体験などで市島町を訪れる関係人口を増やしてきたことが、地域内の市民活動を活性化し、収益維持につながっていたことが、活動記録の分析から把握できました。卒業論文が完成したら、市島町で出会った皆さんにも研究成果を報告し、そこに暮らす人とは異なる視点を提供できたら、また他の地域の災害復興の役に立ててもらえたらと思っています。



▲私(三嶋)は集落の持続可能性をテーマに、石川県の能登半島地震で被災した奥能登でフィールドワークを行っています。

#### 担当教員より

多発する災害、急速な少子高齢化・過疎化は、私たちの暮らしの継続を困難にします。本ゼミでは、これらの問題がもたらす影響を、社会学的な視点から「地域コミュニティ」という単位に注目して研究しています。現地調査は普段の生活を異なる角度から深く考える機会を与えてくれますが、同時に、統計データを活用してマクロな視点から対象地域全体を俯瞰した分析も行ってもらいます。身近な地域の問題を複眼的な視点をもって考えてもらえたらと思います。



菅 磨志保 准教授

## 自然



4年次生 芝田 秀平さん (大阪/府立生野高校出身)

### 最新の土木工学技術を駆使して、文化財を守るための最善策を考えます。

小山ゼミでは、地盤・岩盤を軸とした研究を行っています。その中で、テーマにしているのは文化財の保全・修復、維持管理です。現在、私たちは2024年に発生した能登半島地震で被害を受けた、石川県の金沢城や七尾城跡の石垣の崩れや地割れについて研究を進めています。今後も大規模な地震が発生した場合、同様の被害が発生する可能性が高いため、被害の要因を明らかにし、維持管理や対策の方法を考えなければなりません。そこで私たちは現地に行き、3次元レーザー計測を使用した石垣の3Dのデータを収集し、常時微動計測によって地盤の振動特性を把握し、保全・補修の方法の検討や効率的かつ効果的な維持管理の方法の提案を行っています。文化財を対象とする場合、土木工学だけでなく、考古学を専門とする方々とも意見を交わすため、常に新たな発見や視点

があり、とても面白いです。金沢城や七尾城以外にも、2016年の熊本地震で倒壊した熊本城の石垣の保全・修復にも携わっており、危険な石垣を調査した上で、どの石垣から対策を行うかの優先順位付けを提案しています。文化財は、前世から受け継ぎ、そして、後世へ引き継ぐものなのです。その一端を担う研究に、非常にやりがいを感じています。



▲常時微動計測によって七尾城の地盤の振動特性を把握し、保全・補修の方法を検討しています。

#### 担当教員より

本ゼミでは土砂災害をはじめとした地域の防災、道路やトンネルといったインフラの維持管理、石積や古墳などの文化財の維持管理をテーマに研究を進めています。数値解析、現場計測といった工学的アプローチに加えて、計測結果などをいかに分かりやすく伝え、活用していくかという社会科学的側面も考慮した文理融合の学びが特徴です。



小山 倫史 教授

## 課外活動

高槻ミュージックキャンパスを拠点とした公認団体は、13団体あります。その他にも、千里山キャンパスを中心に活動するクラブ(体育会・文化会等)やサークルに参加することができます。

### 社会安全学部 祭典実行委員会

学園祭を企画・設計し、成功に導く運営活動に携わっています。

主に1・2年次生が所属し、高槻ミュージックキャンパス祭や関西大学統一学園祭の企画運営を行っています。私たちが大切にしていることは、社会安全学部生として学んでいる「防災」や「安全・安心」に関する知識を、来場者のみなさんに気軽かつ楽しく知ってもらうこと。学生主体で企画から運営までを行い、関係するすべての人や企業に価値を提供することが目標です。他学部の実行委員とも協働しながら、一つのイベントを一緒に創り上げるプロセスを通して、社会でも必要になる考動力が身につきます。



▲ 統一学園祭当日の集合写真です。笑顔とともに、学園祭の成功を全員で分かち合いました。



▲ 高槻市内の小学校で防災教育を行ったときの写真です。小学生も参加しやすいように内容を構成しています。

### KUMC

出張授業や防災イベントを通して学部での学びを地域に発信しています。

東日本大震災で教育支援したのをきっかけに発足した社会安全学部の学生団体です。大阪府内の小学校で「防災出前授業」を定期的で開催するほか、地域・学内で行われる防災関連イベントにも参加。「防災啓発ブース」の出展や、ゲームやクイズ、消火器の使い方体験などを織り交ぜた防災教育などに力を入れています。千里山キャンパスの学生も合わせると約700名で組織しており、多くの学生とのつながりができる点も当団体の特徴です。社会安全学部で学んだことをアウトプットことができ、自分の成長につながります。

### つなたかLab.

津波・高潮ステーションを拠点に防災教育や関連イベントを開催しています。

津波や高潮の発生時に水門を制御する「津波・高潮ステーション」を拠点として、防災教育や防災関連のイベントを開催しています。主に小中学生を対象に「防災クイズ」をはじめとする防災教育活動を行うほか、2025年は大阪・関西万博にも出展しました。こうした活動を通して防災に関心をもつ人を増やし、災害に対する危機意識を高めてもらいたいと思っています。また、公務員の方々や連携する機会も多く、公務員志望の学生に人気がある活動団体です。



▲ ミュージックキャンパス祭で防災クイズを行いました。



他 関西大学準登録団体

● KANDAI DPE

他 公認課外活動団体

- 社会安全隊
- 高槻ブルーファイターズ
- TEP(Takatsuki Environmental Preservation)
- MTK(ミュージック高槻球技サークル)
- 昭和レトロ同好会

- りんくる
- MUSE MUSIC FACTORY
- MKC(ミュージック競技かるたサークル)
- PADDLes(ピックルボールサークル)

## 大学院

学部を卒業したら、企業や組織に就職しないといけないと思っている人、そんなことはありません。社会はより高度な知的生産力が求められる時代になりつつあります。今日の社会は多くの仕事がAIに置き換えられていく中で、答えを求める力ではなく、問いを立てる力こそ求められる時代です。大学院における研究活動は、そうした問いを立てる力を効果的に身に付けることができます。

大学院は、特別な人がいく場所なのでは？

『いいえ。大学院は研究活動を通じてより高度な知的生産技術を学ぶ場所です。』

Q 社会安全研究科の大学院は、文系なの？理系なの？

A 学部同様ですが、文系・理系というくりでは捉えられない学問領域です。言い方としては学際的な分野となりますが、それは文系にも理系にも当てはまるということです。社会の安全に関する諸事象は、複数のアプローチ(系)から物事を捉えることになり、そのため双方の視点を学ぶことになります。そうすることで、これまでにない「知」に触れることができる研究分野です。



Q 大学院にいったら、企業や組織で就職が遅れて不利になるのでは？

A 大学院卒を積極的に採用する職種や業界は、学部卒に比べて多くはありませんが、その多くは高度な知的生産を必要とする職種で、一般的に給与水準も上がる傾向があります。令和7年賃金構造基本統計調査によれば、大学卒の月給は全年齢平均で39万6300円であるのに対して、大学院卒は51万7400円となっています。就職が数年遅くなったとしても、生涯賃金の面では十分アドバンテージがあります。



### 社会安全研究科

#### 博士課程前期課程・後期課程(防災・減災専攻)

関西大学大学院社会安全研究科は、「安全の学知」の集積・体系化に取り組むとともに、防災・減災政策の立案と実践、危機発生時の社会的合意形成の技術開発、防災・減災のための制度設計などを担う高度な知識とシミュレーション能力を有する先端的研究者ならびに専門職業人を育成することをめざしています。社会安全研究科は、法学・政治学・経済学・経営学・社会学・心理学・理学・情報学・工学・社会医学などの従来の個別的な学問体系では対応しきれない問題に正面から取り組む新しい大学院研究科です。学際的、複眼的なアプローチを通じて、「安全・安心な社会」を実現することを第一義的に捉え、高度な研究教育を推進します。



#### PDM(Ph.D.of Disaster Management Program) ※英語のみの博士課程後期課程

Ph.D. course in Disaster Management (PDM) will prepare you with a high level of analytical skills and knowledge to make a difference in the fields of disaster management, including disaster mitigation, preparedness, response, and recovery. The curriculum combines interdisciplinary training in engineering, economics, psychology, and management in order to produce leaders with innovative ideas for disaster reduction in both practice and the academic field.



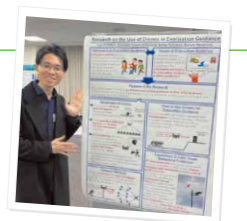
#### 大学院で研究活動を



社会安全研究科 2年次生  
小高 悠暉さん  
(兵庫 / 雲雀丘学園高校出身)  
(社会安全学部卒)

#### 大学院だからできる専門的な学びで「ドローンx避難誘導」に挑戦!

私は「避難誘導におけるドローンの活用」をテーマに、津波を伴う地震発生時の避難誘導においてドローンを活用し、空から助ける方法について研究しています。研究では、南海トラフ巨大地震発生時に津波の被害が想定される地域で、スピーカーを搭載したドローンによる実証実験や、人々の動きについてのシミュレーションなどを行っています。大学院の魅力は、自身が極めたい分野に対して、学部以上に専門的に取り組めることだと思います。「安全」に対して専門的に向き合いたい人には社会安全研究科は非常におすすです。



▲ 学内外問わずさまざまな場での発表・意見交換も行い、自身の研究に役立っています。

# 就職・進路

「安全・安心な社会」への関心が高まる中で、社会安全問題を専門とする人材は、公共部門、民間部門を問わず、幅広く必要とされています。社会安全学部では、学生一人ひとりのキャリア形成を支えています。

## キャリア支援

### キャリアセンター

自らの進路を主体的に定めるキャリアデザインに必要な力を育む環境があります。

キャリアセンター高槻ミュージックキャンパス分室では主に社会安全学部生を対象とした就職・キャリア形成支援に関するガイダンスや各種セミナーを実施。また、キャリアセンタースタッフや就職専門相談員が、将来の進路への不安や就職活動の進め方など、あらゆる学生の相談に親身に対応しています。就職活動が始まる以前の1・2年次生から参加できるキャリアデザイン関連の行事も展開することで、未来を見据え、主体的に自らの進路を捉えて行動が起こせる環境を整えています。



### キャリア教育

#### キャリアデザインを考える

- キャリアセンター主催のセミナーの受講
- 各種インターンシップへの参加
- 「キャリア形成科目群」の受講

#### 基礎能力の向上

全員を少人数制クラスに配属。専任教員が各クラスの指導担当となり、社会人として必要なスキル(情報を収集する、読解する、書く、発表する、議論する)の訓練を行う。

- ▶「入門演習」(1年次)
- ▶「基礎演習」(2年次)

## 多彩に広がる将来の活躍フィールド

### 企業



業種・業態を問わず、あらゆる分野で社会安全問題のスペシャリストが求められています。

### 国・自治体等



公務員やNPO、さらに災害関連の国際機関職員として、世界を舞台に活躍するチャンスが広がっています。

### 研究



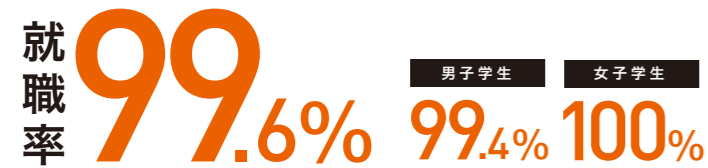
大学院への進学や研究機関などへの就職により、安全・安心の仕組みづくりが期待されています。

### 取得できる資格

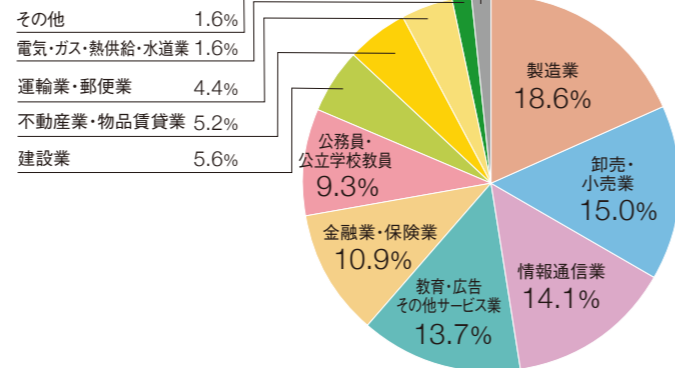
中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(公民)、社会安全士、社会調査士、司書教諭、司書、学芸員、社会教育主事

## 就職実績

社会安全学部第13期生の就職率は、99.6%(男子99.4%、女子100%)と、引き続き高水準を維持し、14学部中、上位の就職率となっています。また、公務員・公立学校教員の占める割合も9.3%と高い水準を保っています。安全・安心に対する社会の高いニーズに応えた結果といえます。



### 業種別就職状況



## 就職・進学先の一例 <2026年3月卒業生実績>

製造業	アマノ、アンリツ、伊藤ハム、NTN、カネカ、キーエンス、サミー、ジェイテクト、シマノ、スズキ、積水化学工業、ゼネラル、TMEIC、デンソーテン、日産自動車、能美防災、初田製作所、富士フィルムビジネスソリューション、三浦工業、三菱重工冷熱、ミドリ安全、村田製作所、ヤクルト本社、大和工業、やまびこ、ヤンマーホールディングス、UACJ、ユニ・チャーム など	公務員・公立学校教員	国家公務員一般職、国税専門官、海上保安官、滋賀県職員、大阪府職員、大阪市職員、堺市職員、枚方市職員、生駒市職員、香芝市職員、松山市職員、高知県競馬組合、京都府教員、徳島県警察官、愛媛県警察官、大分県警察官、東京消防庁、大阪市消防吏員、加古川市消防吏員、鳥取県西部広域行政管理組合消防吏員 など
卸売・小売業	イオンリテール、シャープマーケティングジャパン、樺本興業、トラスコ中山、日伝、日鉄物産、ニトリ、阪急阪神百貨店、阪和興業、ファーストリテイリンググループ、マクニカ、山善、YUASA など	建設業	浅沼組、栗原工業、住友電設、住友林業、セキスイハイム近畿、トーエネック、トヨタホーム、パナソニックリフォーム、LIXIL など
情報通信業	NTTドコモ、NTT西日本、エフサステクノロジーズ、カブコン、京セラコミュニケーションシステム、共同通信社、コナミグループ、JCOM、TKC、東海テレビ放送、富士ソフト、富士通 など	不動産業・物品賃貸業	エスリード、NTT・TCリース、三井不動産リアルティ、リコーリース など
教育・広告・その他サービス業	アクセンチュア、ウォーターエージェンシー、大阪赤十字病院、セコム、西日本高速道路(NEXCO西日本)、日本赤十字社大阪府支部、ニュージェック、富士フィルムサービスクリエイティブ、ペイカレント など	運輸業・郵便業	ANAエアポートサービス、大阪市高速電気軌道、近畿日本鉄道、住友倉庫、センコー、西日本旅客鉄道(JR西日本)、阪急電鉄 など
金融業・保険業	SMBC日興証券、関西みらい銀行、北おおさか信用金庫、紀陽銀行、京都中央信用金庫、ジャックス、住友生命保険、損害保険ジャパン、第一生命保険、日本生命保険、三井住友銀行、明治安田生命保険、ゆうちょ銀行、りそなグループ など	電気・ガス・熱供給・水道業	東京電力ホールディングス など
		その他	港湾空港総合技術センター、森林研究・整備機構 森林整備センター、日本年金機構 など

## 卒業生インタビュー

### 建設業界の人材不足解消に向け、自動化・遠隔化の技術開発に携わっています。

総合建設会社の一員としてインフラの建設に従事しています。在学中に受けた授業や研究活動を通じて、災害に強い社会基盤の構築に携わりたいという思いから建設業界を志望しました。現在、私の所属している部署は施工現場への技術支援や施工方法の技術開発などを行う部署です。主担当で行っているのは、山岳トンネル工事の遠隔化・自動化に向けた技術開発です。これは労働災害防止や技能労働者の担い手不足の解消を目的として、建設業界全体で取り組んでいることです。技術開発を行うためにはさまざまな分野の知識が求められ、必要に応じて学びを深めていくことになります。携わった技術が施工現場で実装され、現場から高い評価を得た時にやりがいを感じています。

現在の仕事に役立っていること **「出来事を多角的な観点から検討する」能力が役立っています。**

施工現場でも技術開発を行う時にも、安全は最優先事項です。しかし、不測のアクシデントが起きた際にはとっさの判断が求められます。その時に一側面から判断せず、さまざまな観点から適切に判断する力を学生時代に身に付けることができて良かったと感じます。

### 株式会社大林組に勤務



村田 宗一郎さん  
社会安全学部 2022年3月卒業  
社会安全研究科 博士課程前期課程 2024年3月修了

### 社会安全学部で培った「安全」を糧に、鉄道運転士として人々の生活を支えています。

インフラ事業に興味をもち、なかでも幼少期の夢でもあった鉄道業界を志望して、近畿日本鉄道に就職しました。2022年春に入社後、駅係員・車掌を務めたのち、2023年秋には国家資格である「動力車操縦者運転免許」を取得しました。現在は、近鉄奈良線を担当線区とする東花園列車区の運転士として乗務しています。通勤ラッシュの時間帯には1列車で1,500人のお客様を目的地まで安全かつ確実にお運びするなど、人々の日常生活を支えていることにやりがいを感じています。また、プラットフォームや沿道から電車に手を振ってくれるお子さんの姿を見て、この仕事だからこそこの魅力を感じるとともに、幼いころの私を思い出します。

現在の仕事に役立っていること **ミスの真の原因とその対策を考える力を日々生かしています。**

鉄道運転士は、大勢のお客様の命を預かっている以上、常に完璧な仕事ぶりが求められますが、人間の特性上ミスは起こり得るものです。たとえ軽微なミスであっても、「誰」ではなく「何」が悪かったのかに着目し、真の事故原因とその対策を考えることで、重大事故の防止に努めています。

### 近畿日本鉄道株式会社に勤務



尾原 柁 さん  
社会安全学部 2022年3月卒業

### 公務員として福祉行政に携わる上で、文理融合の幅広い学びが活かされています。

大学で学んだ防災・減災の知識を生かし、災害への危機管理を高めてより多くの命を救いたいと思い、大阪府庁を志望しました。現在は生活保護を担当し、府内の市町村や指定介護機関への指導や監査を実施して、生活保護法や介護保険法に基づく行政が適切になされているかの確認を行っています。国と市町村との橋渡し役を担い、府全体が適切な行政を行えるよう正確・丁寧な業務に努めています。将来的には、在学中の防災・減災に関する学びを生かすとともに、より専門的な知識を身に付け、災害対策を行う危機管理の業務に携わることが目標です。自然災害による被害を最小限にできるよう対策して、大阪をより災害に強い街にしたいと考えています。

現在の仕事に役立っていること **文理融合の幅広い学びが、公務員としての業務に役立っています。**

文理融合の幅広い知識を身に付けられることが、公務員として働く上でアドバンテージであると感じます。公務員に必要な法律の知識も学んだことで、適切な業務遂行につながっています。リスクマネジメントに関する知識のほか、心理学やメンタルヘルス学も生活保護受給者に寄り添う福祉行政に役立っています。

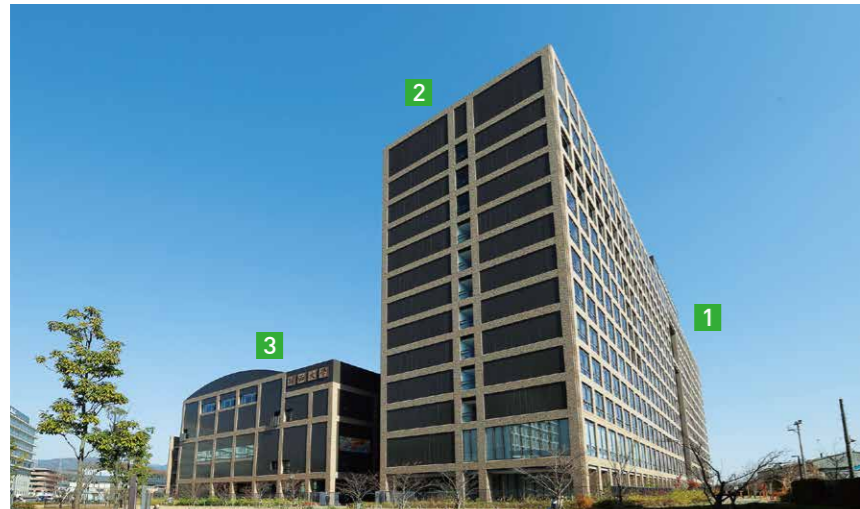
### 大阪府庁に勤務



宮内 瑞樹 さん  
社会安全学部 2020年3月卒業

# キャンパス紹介

社会安全学部がある高槻ミュージズキャンパスの特徴的な施設・設備を紹介します。



ミュージズキャンパスはJR高槻駅から徒歩約7分、阪急高槻市駅からも徒歩約10分の交通至便な立地。また、大阪の都心や京都に30分程度で行くことができ、大学生生活のさまざまな場面で便利なキャンパスです。

- 1 東館**  
(初等部・中等部・高等部校舎棟)
- 2 西館**(大学・大学院学舎棟)
  - ミュース大学図書館
  - 安全ミュージアム
  - キャリアセンター
  - ミュース保健センター
  - 関西大学児童図書館
  - 生涯学習センター
  - ミュースホール
- 3 北館**
  - レストラン“ミュース”
  - 災害用備蓄倉庫 ほか

## 特徴的な施設



安全ミュージアム

社会安全学部・社会安全研究科で取り扱う「防災・減災、事故防止、危機管理」などの学問領域を題材にした資料を展示しています。また、生涯学習の地域拠点として、市民への開放もしています。



ゼミ研究室

3年次からは、すべてのゼミに学生専用のゼミ研究室があるという恵まれた環境のもと、ゼミ生同士で活発な議論をしながら研究を進めています。



災害用備蓄倉庫

防災拠点として、災害時に必要な食料や生活用品のほか、発電機や非常用ライトなども保管しています。また、プールの水を浄化して、生活用水を確保するシステムなども備えています。



Global Smart Classroom

各キャンパスをオンラインで結び、対面×オンラインでの授業を可能にします。対話しやすい独自の遠隔会議システムにより臨場感を確保し、遠隔でも能動的に参加できる授業を実現しています。



アクティブ・ラーニング教室

グループワークなど、実践的な授業の受講に適した教室です。電子黒板やプロジェクターが豊富に設置されています。



レストラン“ミュース”

中学生から大学院生まで、さらには一般の方も利用できる地域開放型レストラン。リーズナブルで豊富なメニューは大好評で、オープンカフェコーナーなどつろぎのスペースも備えています。



ミュース大学図書館

手が届きやすいように低い書架が並び、圧迫感なくすっきりとした空間には、約5万冊の充実した図書がそろっています。希望の図書がなければ、他キャンパスの図書館から取り寄せることも可能です。



ミュースホール

4階と5階にまたがって広がる、500人を収容可能なミュージズキャンパスで一番大きな教室です。大スクリーンや最新AV機器の設置だけでなく、カラフルな色調で明るい雰囲気を作り上げるなど、デザイン面でもこだわりがあります。

## ミュージズキャンパスの地域交流イベント



多彩なメニューの公開講座



近隣住民の方々との炊き出し

キャンパスを体験しよう!

▶ オープンキャンパス2026 @高槻ミュージズキャンパス

6/21(日)・8/22(土)

(午前中のみ)

詳しくはコチラから ▶▶▶▶

# 教員・研究紹介

社会安全学部の教員とその研究を紹介します。

## 社会

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <br><b>亀井 克之 教授</b><br>専門分野<br>■ リスクマネジメントとその事例 | <br><b>桑名 謹三 教授</b><br>専門分野<br>■ 事故と損害保険      | <br><b>高野 一彦 教授</b><br>専門分野<br>■ コンプライアンスとCSR・情報法       |
| <br><b>永田 尚三 教授</b><br>専門分野<br>■ 消防行政           | <br><b>永松 伸吾 教授</b><br>専門分野<br>■ 災害の経済分析と減災政策 | <br><b>山崎 栄一 教授</b><br>専門分野<br>■ 地方自治体と災害対応             |
| <br><b>吉田 裕 教授</b><br>専門分野<br>■ 交通システム安全論、事故分析  | <br><b>河野 和宏 准教授</b><br>専門分野<br>■ 情報セキュリティ    | <br><b>中間 千香子 准教授</b><br>専門分野<br>■ 公衆衛生学、老年医学、生活習慣病、感染症 |

## 人間

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <br><b>岡本 満喜子 教授</b><br>専門分野<br>■ 消費者安全と事故調査制度 | <br><b>近藤 誠司 教授</b><br>専門分野<br>■ 災害とメディア                  | <br><b>菅原 慎悦 教授</b><br>専門分野<br>■ リスクをめぐるガバナンス          |
| <br><b>土田 昭司 教授</b><br>専門分野<br>■ 安全の社会心理学      | <br><b>中村 隆宏 教授</b><br>専門分野<br>■ 事故・災害とヒューマンエラー           | <br><b>廣川 空美 教授</b><br>専門分野<br>■ 職場のメンタルヘルス、社会疫学、健康心理学 |
| <br><b>元吉 忠寛 教授</b><br>専門分野<br>■ 災害の心理学        | <br><b>地頭所 里紗 准教授</b><br>専門分野<br>■ リスクコミュニケーション、国際マーケティング | <br><b>城下 英行 准教授</b><br>専門分野<br>■ 防災教育・安全教育            |
| <br><b>菅 磨志保 准教授</b><br>専門分野<br>■ 支援と復興の社会学    |   |  |

## 自然

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <br><b>一井 康二 教授</b><br>専門分野<br>■ 性能評価に基づく耐震設計 | <br><b>伊藤 大輔 教授</b><br>専門分野<br>■ 自動車衝突安全・衝撃生体力学・事故分析             | <br><b>奥村 与志弘 教授</b><br>専門分野<br>■ 総合防災・減災学                 |
| <br><b>川口 寿裕 教授</b><br>専門分野<br>■ 事故のシミュレーション  | <br><b>越山 健治 教授</b><br>専門分野<br>■ 未来都市に潜む災害危険性                    | <br><b>小山 倫史 教授</b><br>専門分野<br>■ 地盤災害                      |
| <br><b>高橋 智幸 教授</b><br>専門分野<br>■ 水災害の防災・減災技術  | <br><b>林 能成 教授</b><br>専門分野<br>■ 地震学、地震災害                         | <br><b>細川 茂雄 教授</b><br>専門分野<br>■ 熱・流れと安全                   |
| <br><b>福井 敬祐 准教授</b><br>専門分野<br>■ 統計科学        | <br><b>特別任命教授</b><br>社会安全研究センター長<br>河田 恵昭<br>専門分野<br>■ 防災・減災学の構築 | <br><b>特別任命准教授</b><br>ナフィサ ビンティ イスマイル<br>専門分野<br>■ 多文化協働学習 |

※授業は開講していません。